

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))
分担研究報告書

ICD-11の適用を通じて我が国の死因・疾病統計の向上を目指すための研究
「課題のある死因(老衰、心不全、外因死等)のICD-11枠組での適切な把握手法の提案」

研究分担者 木下 博之 香川大学医学部 教授

研究要旨

課題のある死因(老衰、心不全、外因死等)について、本年度は老衰についての意見の集約を行った。外因死に関しては、溺水事例で薬物が影響したと考えられる事例について予備的検討をすすめた。

老衰については、検案・解剖等に従事する法医学者に対して法医病理学的立場からの意見を集約し、それらを適切に把握する手法について検討した。外因死に関しては、死因別に影響する要因についての検討を行い、ICD-11の枠組みを用いた適切な把握についてさらに検討をすすめる。

A. 研究目的

近年の医療の進歩と環境の改善により、先進国での人口の高齢化が著しい。わが国では特にその進行が著しく、世界的にもこれまで経験のない超高齢化社会に突入しており、その影響は様々な社会指標にも反映されつつある。保健統計の中でも近年、死因統計における「老衰」の増加が顕著であり、主な死亡原因の中でも大きな割合を占めるようになってきている。わが国の「老衰」による死亡は、現在では年間10万人を越えるまでの急速な増加がみられている。その急激な増加は死因統計から今後の保健政策を考える上でも無視できない要因であり、それらを適切に把握していくことが重要であるが、「老衰」自体の定義の曖昧さや、複合的要因の関与も大きく関連している。そこで、法医学者を中心に、法医病理学的立場での「老衰」の定義についても検討する。

また、外因死に関しては、剖検例のうち、

主たる死因に影響を与える要因については、まずは課題を抽出することとした。

B. 研究方法

老衰に関しては、班会議にて、これまでの老衰に関する研究報告のまとめと、今後の計画を検討した。

法医学者に対しても老衰に関する意見が分かれることが考えられることから、インタビューガイド(案)を作成し、まず作成した(案)について試験的に意見を聴取し、それを基に本格的なインタビューを実施することとした。

外因死の事例に関しては、剖検事例の中で主たる死因に影響を与えた因子の検討を進める。まず、溺水事例で薬物が影響したと考えられる事例について予備的検討を行い、課題の抽出を行うこととした。

(倫理面への配慮)

データの収集に関しては、個人情報や個人が特定できるような内容を含まない。

C. 研究結果

老衰については、法医学者向けに作成したインタビューガイドの妥当性について予備的に検討した。今のところ、質問事項については概ね妥当であると考えている。

外因死の事例に関しては、剖検例で薬物が影響したと考えられる溺死例を記録し、その関与の度合いをどのように死因統計に反映する方策があるかが課題であることが明らかになった。溺死以外の外因死の事例についても、影響する因子について同じような課題がある可能性が考えられた。

D. 考察

老衰に関するインタビューガイドに関しては、法医学者向けの予備的検討が完了したことで、対象数を増やすなどの形での実施を検討する。

外因死に関しては、個々の事例での問題点が、一般化した課題として取り上げられるかどうか、さらに大規模な調査を行う。

E. 結論

今後、「老衰」自体の定義の曖昧さや、複合的要因の関与について、死体検案や死因の究明を行っている法医学者の意見もとり上げた上で、さらに適切な把握方法について模索している。

外因死に関しては、溺死だけでなく、高温や低温など様々な環境要因の関与する事例についても検討を進める必要がある。

G. 研究発表

1. 論文発表

Takei S, Kinoshita H, Jamal M, Yamashita

T, Tanaka E, Kawahara S, Abe H, Kimura S. An autopsy case of drowning under the influence of etizolam: a case report. *International Journal of Medical Toxicology and Forensic Medicine*. 2023; 13: 40000.

Takei S, Kinoshita H, Jamal M, Yamashita T, Tanaka E, Kawahara S, Kumihashi M, Abe H, Tsutsui K, Kimura S. An autopsy case of drowning under the influence of brotizolam overdose. *Review of Albanian Legal Medicine*. 2023; 15: 77-81.

Hayashi R, Imanaga T, Marui E, Kinoshita H, Ishii F, Shinohara E, Beppu M. Senility deaths in aged societies: The case of Japan. *Glob Health Med*. 2024 DOI: 10.35772/ghm.2023.01127

2. 学会発表

なし

3. 関連した実務活動

日本 WHO 国際統計分類協力センター協力
ネットワーク運営会議 臨時構成員
日本医師会 死体検案研修会(上級) 講師
香川県在宅医療スタートアップ研修 講師

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし